

ノートの特徴は様々

特徴的なノートをいくつか紹介しよう。

たとえば、孤立死対策として必要最小限の手を打ちたいなら、遺品整理業者キーパーズの『おひとりさまでだいじょうぶノート。』が便利だ。経産省の指針ではなく同社の現場経験から必要な項目をえり抜いており、「お年寄りが1日で最後まで目が通せるように」というコンセプトの下、できる限り大きな文字の解説コーナーと最小限の記入欄を織り交ぜて、表紙込みで24ページの薄さにまとめている。吉田太一社長は「こういうノートで伝えるべき内容が多い方は、普段密に伝えていた人がいなくて、引っ込み思案という場合が多いです。そのまま亡くなると、残された人にすごく手間がかかってしまう。だからこそ書いてもらえるように、最小限の手間で済む作りにする必要があるわけです」と狙いを説明する。知人の記入欄が6人分しかないのも、友人がたくさんいる人にこのノートは不要と割り切ったためだ。2011年から店舗の窓口や公式サイトを通して希望者に無料配布しており、13年9月時点では累計8万冊を超えている。

